

御所見通信

2018年10月31日

11月号

藤沢市立御所見小学校

校長 三橋 雅幸

校門の不思議

学校の西門（JA側）、よく見ると不思議です。新しい門があるのに、白御影石の立派な門柱がどっしりと立っている。藤沢市立御所見小学校という学校銘板も新しい門には横書きのものが、古い門には縦書きのものがある。住宅ならば表札が2枚あるようなもの。白御影石の門柱にはまっている学校銘板は、門柱のくぼみに比べて明らかに小さい。よく見ると、昔の釘穴が見えている。校門を見ると、想像をかき立てられることが次々と出てくるので、ちょっと調べてみました。

白御影石の古い門は、1952年（昭和27年）に開校60周年記念としてつくられたものでした。同じ60周年記念事業として、校舎前にある二宮金次郎像が建てられました。当時は、高座郡御所見村立御所見小学校。翌年には、校舎も改築されました。1955年（昭和30年）、藤沢市と合併したあと、藤沢市立御所見小学校という学校銘板に掛け替えられました。門柱の釘穴は、村立小学校の時の学校銘板が、いかに大きかったかを教えてください。

1979年（昭和54年）には、校門が移設されました。横書きの学校銘板は、そのときの校長だった松川雅雄先生の書だそうです。白御影石の古い門柱があまりにも立派で、御所見地区の教育のシンボルだったので、新しい校門の中に組み入れてもらったとのこと。そのために、門が二重にあるデザインなのです。

古い門柱には、当時の人々の御所見小学校への思いや期待がたくさん詰まっています。門柱の大きさから、御所見小学校が地域の人々にとっていかに大切な場所であったかがわかります。60年以上たった今でも、当時の人々の思いを想像すると、身の引き締まる思いがします。



二重になっている現在の校門（西門）



60周年記念で立てられた門柱